

2000年4月1日
第3巻第2号(通巻10号)

ハイライト

特集：放送大学に学んで

2 ほんのはずみで

3 第3の人生の原点

4 卒業研究に取り組んで

5 卒業研究の思い出

6 インドネシア通信

7 学生団体・サークル情報

UA神奈川学習センター はる だより



放送大学神奈川学習センター
〒232-0061 横浜市南区大岡 2-31-1
TEL:045-710-1910
FAX:045-710-1914
<http://u-air.net/kanagawa/>

[イラスト：坂戸五葉]

特集：

放送大学に学んで

放送大学に学んで

片岡 久雄

現役を退き還暦を迎えると、人生の最後の節目として「晩年をどのように生きるか」という問題が、現実のものとなってくる。確たる人生観を持たずに生きてきたため、いまだにこのような迷いのあるのは、まことに情けないかぎりであるが、凡人なので仕方ないとあきらめている。

このような哲学的な問題はさておいて、さしあたり「余生はどのように過ごすか」という方針は決めなければならない。「余生は楽に暮らしたい」と思うのは誰しも同じであると思うが、やはり生きていくためにはバックボーンとして、「生き甲斐」を持つことが重要であろう。福沢諭吉は学ぶ者と学ばざる者の違いを、説き学ぶことの重要性を指摘している。私はまず放送大学に入り、学問することを「生き甲斐」としたのであ

る。体力、知力の衰え、特に記憶力の低下を考えると多少不安があったが、思いきって平成2年4月放送大学に入学したのである。丁度満60歳になるところである。

学習方針としては専攻を「社会と経済」とし、経済学の基礎知識を学ぶことを主眼に、あわせて文科系の学問を学び幅広い教養の取得に努力していくことにした。専攻を「社会と経済」にしたのは、いうまでもなく経済問題はわれわれの日常生活に直結する問題であるばかりでなく、経済政策の善悪は国家の安定、しいて言えば世界の安定にもつながる重要なことである。内外の問題を理解するためにも、経済の基礎知識の修得は欠くことのできない事項であると思ったからである。あわせて学習することにした文科系の学習は、

現役時代おろそかにしてきた教養学の不足を補うためである。

5年間の在学期間を経て平成7年3月卒業したが、取得した単位は169である。うち71単位は面接授業によるものである。入学時学習目的とした経済の基礎知識の修得はおおむね達成したとされている。また、知識を習得することが教養を身につけることであるとはもちろん思っていないが、知識の取得が教養の一要素であることに間違いはない。初歩的な知識であっても、文科系の各領域を一応網羅的に学習できたことは望外の喜びである。

まもなく70歳の誕生日を迎えるが自分の半生をふりかえってみるとき、放送大学の5年間はまことに有意義な期間であったと思っている。放送大学で修得した知識を今後の学習に生かして行きたいと思っている。

ほんのはずみで

市川 裕二

昼頃に行くせいか、私がよく利用する郵便局に一台しかないATMの前には、大抵列が出来ています。去年の6月頃、やはり列が出来ていましたので、仕方なくいつもの様にキョロキョロしていましたら、たまたま放送大学のパンフレットが目に入りました。たいした興味も無かったのですが、郵便局でキョロキョロと美人を探しているより、放送大学の方がまだと思いい一部手に取ったわけです。

それで去年の10月に放大学生になりました。簡単な案内書を送ってもらったつもりだったのに、授業科目案内とか学生募集要項とか、みんな届いちゃって。眺めていたら、気力も出てきちゃって。本当に弾みで放送大学に入りました。でもあの時、なぜ弾んだのかと考えてみますと、きっと弾む用意が

出来ていたとか、自ら弾もうとしていたとか、そういう事だと思います。渡邊二郎先生の「哲学入門」に、「自分の『死』の自覚こそは、各人に、かけがえのない『自己』を覚醒させる。その時にこそ、『本来的』かつ『全体的』に、自己の『実存』に徹して、生きようと『決意』する覚悟が目覚めてくる」という文があります。

省みる程の過去など無く、未来が大きく目の前に開けているような年代なら構わないのですが、たっぴりした過去があり、その中に後悔や疑念ばかりが詰まっていると、この先、どうしたって同じで良い筈がありません。当たり前であった生も、実は少しも当たり前でない事が分かり、有り得ないものであった死が当たり前な身近なものとして感じられてくると、

自分の在りようを考えない訳にはいなくなってきました。

以前は試験や就職のために勉強してきましたが、今度は自分を見据えながら勉強する時です。入学してまだ半年ですが、自己の生への、学問への小さな「決意」が芽生えてきたようにも思えます。小さな門をくぐると、思いがけない大きな風景が広がっている、何より日本文学の深い森を歩いてみたい、そんな新鮮な気分は何時もとてもいいものです。

クラブ活動として、うえるかむ、英会話サークル、インターネットクラブとその中の英会話班に参加しています。文化人類学研究会と運動系のクラブにも入ろうかと思っていますが、少し多すぎるかな。ダイエットしないと駄目かな。

特集：

放送大学に学んで

1993年4月、薄暗いお茶の水女子大の講堂の最後列で、私は間もなく始まろうとする入学式を、晴れやかな若い人たちの間で待っていた。突然、後から「私も娘の隣に座ってよろしいのですか？」と声をかけられた。振り向くと、明らかに入学生の母親らしき女性である。一瞬、“あっ、間違えてる！ 私が隣のお嬢さんと母子だと”。とっさに私は、「すみません。私も入学生なんです・・・」とつい小声で謝ってしまった。無理もないことなのである。家族席は2階であることを当然ご存じだったはずのその方も、私の後ろ姿を見て娘と一緒に座れると思われたのであろう。私62歳、隣のお嬢さん（後のクラスメート）22歳、その日は廊下で先生と間違えられて何回かおじぎをされてしまった。かくして老けた新生入生は、歳を忘れての第3の人生へ足を踏み入れたのである。

よく、どういう段階を踏んで大学院を受験したか尋ねられるが、思えば放送大学の面接授業「地域社会学」の講師の先生がご縁の発端といえるであろうか。参考文献の先生方にお目にかかれる喜びでまず研究生になった。進学という確固たる意志をもって進んだのではなく恥ずかしいが、ここではっきり言えることは、“放送大学で目覚めた”ということ、いつしか前向きに歩き出したということであろう。遅すぎるほどの時期から学び始めた放送大学であるが、そこで気付いたことは、過去において体験したことがいろいろな学問に結び付くということ、それらが日常生活で相互に関わる周辺領域の学問（私にとっては民法・特に家族法、社会学など）に新しい興味が芽生えたのである。その原点こそ放送大学であり、これが

第三の人生の原点 佐藤 美津留

無ければ現在の私はないものと思っている。

私は第2次世界大戦の真っ只中にかつての女学校時代を送り、学校内で戦災も体験した世代である。戦後の学制改革による初の新制高校卒であり、初の赤い羽根共同募金を行ったなど、初の、初めという体験も多く、戦中・戦後の生きた事典を背負っていると笑うこ



ともある。この時期には、自己実現よりさらに優先させなければならぬクライシス（危機）が身近に溢れていたし、社会制度の脆弱さ、ジェンダー問題につながる女性にかかる負担感など、それまで肌で感じていた諸々のことが、放送大学で学ぶようになって一つ一つ目からうろこが落ちるようになった（？）かと思えるのである。日常生活における漠然とした疑問、矛盾が先行研究の中で10年も前から重ねられている研究であることの発見や、共感した時の新鮮さを今も思い出す。それにしても論文一つ書いたこともない、右も左も解らなかつた私たち世代

をご指導下さった先生方のご苦労はたいへんなものと想像に難くない。しかし最近では放送大学、それに続く大学院においても、良き先輩や後輩の努力もあってか、真剣に学ぼうとする姿勢だけはどうかや対外的にも認めてもらえるようになってきたように思える。

何れにしる40歳違いの同級生と席を同じくしながらも、その年齢差も経歴差も感じさせられず、先生、級友と厳しく意見を交わした2年間は珠玉の時間であった。未熟なワープロでのレジュメ作りなど、人の倍も3倍も時間を費やし、辛い深夜に強い私は気がつくや夜が白んでいたこともあったが、辛いとは思わなかった。成人学生としては、やや長い人生経験が時には有利なことがあり、「経験してから学ぶ」ことが理解の助けにもなった。さらに院終了後も、今もって新しい院生とのゼミ合宿に、当たり前のように声をかけられて参加する幸せを享受している。放送大学生との交流も然り、老いも若きも共に学び合ったことを基盤に、今もサークル“うえるかむ”に属し、昨年は68歳の初体験でオーストラリアでのホームステイ、乗馬などに挑戦し、こんな素晴らしいこと味わっていいのという思いをした。その延長線上で、ホストファミリー、留学生とのメール交換・・・と考えられなかった世界が今ますます広がっている。同じく初体験といえ、昨年68歳にして迷い込んだともいえる非常勤講師の仕事があるが、おこがましくてつい声をひそめてしまう。しかしそれを聞いて元気を出して下さるということ、それを耳にして、あえて附記した。今教えるためにも放送大学のお世話になっている。

放送大学で学ぶ 小林 恵美子

戦中戦後の不安と激動の時代に中高と学びましたが、戦中は食糧増産のため農作業をする毎日でした。やがて終戦になり、基礎的なものを習ってないままの英語は、特に悲惨な状態でした。敵国語とされていたのが、急に学年にあわせて、いきなり上級の勉強をしなければならなかったのです。

戦後の大混乱で治安の悪い時代であったため、家から遠くはなれての大学進学は、あきらめなければなりません。子育ても終え、時間的な余裕も出来た時に、放送大学に入学出来ることを知り、若い時の希望が叶えられることになりました。

早速入学いたしました。充実した日々を送ることが出来、これからの生き方を学ぶことが出来ました。多くの友人も出来ました。放送大学では、単位を取るための試験が楽しみになりました。それは一点でも多くよい成績を取りたいと思っていた若い時と異なり、楽しみながら学び、いろいろな知識を得るということで、ゆっくり学ぶことが出来ました。試験で不合格になり、再試験を受けることが更に深く勉強することになり、かえって良かったと思っております。

最近では学級崩壊があると言われるのに、この大学の面接授業

特集：

放送大学に学んで

では、私語もなく、いろいろな質問もあり、みんな一生懸命で勉強しております。ある面接授業の先生が放送大学では本当の授業ができ、学生からも質問が出て、いろいろ教えられることも多く楽しみにしておられるとおっしゃっておられました。

状況の許す限り学んで参ります。まだ入学していない人々に、希望のある楽しい放送大学のあることを知って欲しいと思います。最後になりましたが、先生方をはじめ友人、家族に感謝申し上げます。

卒業研究「法華経」に取り組んで 田嶋早苗

“法華経”とは“妙法蓮華経”の略で、“白蓮のような正しい教え”という意味である。

昨年11月に提出した卒研“法華経の心髄を知る”を、今読み返している。何故、こんな大それたものに挑戦したか、唯、法華経の入口にさしかかったただけのものではなかったかと、今になってみると恥ずかしい念でいっぱい状態である。

若い頃、私は宮沢賢治のファンであった。宗教については無知、無関心であったが、賢治が熱心な法華経信者である事を知り、いつかは本格的に法華経を学んでみたいと思っていた。その後、生活に追われ、法華経の事はすっかり忘れていた。放送大学に入学し、そして今、卒業研究に辿り着き、ハッと思い当たったのが法華経であった。卒業研究テーマの条件を考えて見ると、興味があるもの、生活に根ざしたもの、生涯続けられるものなどがある。これらについては、クリアー出来る。文献も多い。しかし、宗教の研究は独特なものなので、自分なりに解釈したり覆したりする事は

危険である。このことでは、卒業研究には不向きなテーマではないかと思った。が、どうしてもやってみたかった。法華経は聖徳太子以来信仰され、今以て熱烈な信者が多い。研究に入れたら、どんなにか素晴らしいかとずっと考えていた。

いざ蓋を開けてみると、執拗な程、同じ事の繰り返し、自画自賛、教理らしい記述はない。これが法華経なのかと落胆し、どこから手をつけてよいやらお手上げ状態になった。法華経の注釈書や寺の住職の話によると、法華経は最後まで読み、更に何回も読まなければ真の法華経はわからないと言う。そういうものかと、いつも持ち歩き、暇さえあれば紐解いていた。悶々とした日々を過ごしていた。“空”の一字でも研究対象になる程に、また読み込めば読み込むほど、内容が豊富であることがだんだんわかってきた。原稿用紙に書くという事は、自分の考えを生み出し発表する事である。この難解な仏教用語をどう表現し、誰を対象にしたらいいかほんとうに悩んだ。それを解消してくれたの

は、渡邊先生の一言である。「研究は自分自身への問、自分自身への発表の積りで」と。その御助言で、さらにもっともっと知りたいと、熱いものが心の底から沸いてきた。

法華経の心髄を一言で表わせば“妙法蓮華経”である。意外であった。普段何気なく言っている法華経という言葉が心髄とは……。廻り道して始めてわかった。“南無妙法蓮華経と一言叫ぶと世界と我と共に不可思議な光に包まれる”と言っている賢治の宇宙信奉を実感として捉えられた。

壮大にして華麗、詩的想像の法華経は、綺麗ごとでは済まされない世の中を、ありのままに悪びれもせず、差別してると同時に救済の道をも数多く説いている。法華経の研究は、言葉でも文字でも表わせない奥深いものがあつた。現代は自分という存在を模索している時代である。法華経はあらゆる面に於いて示唆してくれるもの、と確信できるところまで到達できたことは、卒業研究を終えての私の喜びである。皆様も、是非御一読を。

特集：

放送大学に学んで

卒業研究の思い出

川崎 正

今年も卒業、入学のシーズンになってきた。この時期になると学生時代の楽しい思い出や苦しかった思い出がふと脳裡をよぎるのは、私一人ではないのではなからうか。私は、1992年3月に放送大学を卒業したが、この時期になると放送大学での卒業研究（卒業特論）履修に多くの時間をかけた日々が、懐かしく思い起こされる。紙面を借りて、かれこれ10年前になるのではなからうか、卒業研究の思い出を振り返るとともに放送大学における卒業研究の意義について、私見を記すことにしたい。

当時、全科履修生にとって卒業研究は必須科目であり、面接授業（3単位）と論文提出（3単位）により卒業要件たる6単位が認定されると言うものであった。放送大学入学以降、日々の勉強に加え、仕事の合間を工夫しての面接授業出席、レポート提出、単位認定試験など多くの同窓と同じ過程を経て、何とか卒業研究登録の条件である単位数取得にメドがつき、登録の準備作業を開始したのは1990年末頃であった。卒業研究登録の準備作業、即ち、「卒業研究のテーマを何にするか」、「テーマに合致する指導を誰（教授）にお願いするか」、「いずれの学習センターで指導を受けるか」等々についての検討を重ね、神奈川学習センターの坂井先生の指導を受けるべく科目登録を行ったのは1991年2月頃であったろうか。ともあれ、1991年4月から専門科目の履修に並行して最大の壁であった卒業特論の単位取得を目指した学習が、以下のスケジュール；

- ・4月から8月：資料収集と論文構成の推敲、ゼミでの指導、ドラフト作成
- ・9月：合宿用論文ドラフトの執筆

- ・10月：合宿（放送大学本部セミナーハウス）での集中指導
- ・11月：最終論文の執筆、提出
- 翌年1月：主任教授及び指導教授による最終面接、で開始されたのである。

卒業研究は、準備作業から通算すれば約1年間に亘るものであったが、特に1991年4月から10月迄の約7ヶ月間は、テーマに関する資料/論文の収集及び内容の整理、論文構成の推敲とドラフトの作成（先輩の卒業論文を閲覧、参考にさせていただいた）、ゼミ（月に一回）における学習現況の発表と指導、指導結果に基づく追加資料の収集と内容整理、合宿用論文ドラフトの執筆など、今振り返っても多くの時間と精力を卒業研究に注ぎ込み、苦しくも真剣に勉学に取り組んだ時期であったとの思いが強い。

また、学生間の交流機会が少ない放送大学において、先生とゼミ

に卒業のための壁（卒業特論の単位取得）を超えた達成感と自信をもたらしたのも、卒業後も続くメンバーとの交流の原点、懐かしさを思い起こさせる原点になった意義深いものであったのである。

今年（ミレニアム2000年）この10年間における情報通信分野の技術革新は目覚しく、パソコンをインターネットに接続すれば世界中の情報が検索でき、必要な情報を居ながらにして見ることが出来るのみならず、放送大学のホームページにアクセスすれば先輩の卒業論文を何時でも閲覧できる。又、E-MAILにて先生の指導を得ることも可能となり、まさに時間と距離の壁が取り外されたと言っても過言ではなく、私たちの時代環境とは比較にならないほど卒業研究の履修を行うための環境が整備されている。

現在の放送大学学則によれば、卒業研究は必修科目から選択科目



メンバー（約15名）との年代を超えた交流が図れたこと、更には卒業後から今日まで定期的な会合などを通じゼミメンバーとの交流が続けられていることは、「卒業研究という必修科目の存在」と卒業研究の学習を通じ「履修体験の共有認識」が相互に深められたことに起因するものと理解している。故に、私にとっての卒業研究履修は、苦しくもメンバーと一緒

に変更されているとのことであるが、自分の選んだテーマについて考察を進め、文章にまとめ、結論を得ることの難しさ、楽しさを経験するとともに、とかく学生間の交流機会が少ない放送大学において人との関わり合いを得るためにも、放送大学で学習する多くの学生諸兄が「卒業研究」に取り組みれんことを切望してペンを置くことにしたい。

インドネシア通信

インドネシア 今

山本君代

昨年10月、初めて公平な大統領選挙が行われ、ワヒド大統領が選ばれたのは、日本の皆様もご存じのことと思います。スハルト打倒後、今インドネシア国内で最も重要な課題は、KKK（腐敗・癒着・身内主義）一掃です。前大統領ハビビはバリ銀行汚職で大統領選にも出られず退陣し、現ワヒド大統領は現実路線を取るあまり、いつからクリーンになるのかさえわかりません。

一方、人々は、ラマダン月（断食月）も終わり、イスラムの新年が始まって、あの人この人がメッカ巡礼に向けて出発しはじめました。約45日かけ、費用は約50万円。これはなんと平均給与の2年半分です。行く前に盛大なパーティをし、帰国後もパーティで、この時のためにせっせと貯金をしていたのでしょう。帰国すれば、ハジ（男）、ハジャ（女）と呼ばれ尊敬されます。

私の身边でも、学校の舎監長の

奥さんが出掛けることになり、出発パーティに呼ばれました。当日は、この辺りにこんなに人が住んでいたかしらと思われるほど、村中の年寄り子供も集まり、昼食会です。人々は入れ代わり立ち代わり主催者にお祝いの言葉を述べ祝い金を出して、食事をして帰ります。この日のために牛2頭、馬1頭を使ったとか。そう、ここマカサ人は馬を御馳走にします。ほとんどが唐がらしをたっぷり使った煮込み料理です。白い米は日本風に炊きます。魚も、焼いてカレー風味に煮てありました。そして、町から楽団（エレキとドラム）を呼び、屋外でガンガン演奏します。こちらの演歌調の曲（ダンツツ）です。しかしイスラムなので、アルコールは抜きパーティです。もっとも、都市ではこんな風潮も廃れ、ごく身内だけの出発パーティで済ませるようです。

さて東ティモールが独立後、各

地で独立が叫ばれるようになりました。イリアンジャヤ（パプアニューギニアの西半部）、アチェ、カリマンタン、ココスラウェシ島でも。今まで中央（ジャワ島）に搾取され、軍政下強権で統制されていたことを考えると、部族意識と民族の独立を支持してあげたい気持ちにもなりますが、一方、今インドネシアが分解するとソ連崩壊後の東欧のようになりかねません。国連もアメリカも日本も、それだけはくい止めればと、現政権支援の援助を惜しまず投入しています。・・・その数%は日本とこちらのKKKに吸収されて・・・？！

政治も援助もきれいごとでは済まされない、何か大きなベクトルの動きを感じています。

2000年3月1日

インドネシア通信
スラウェシ島にて



花

花の下に強き磁気あり宴を張る
 花の宴二千年紀を酔ひてをり
 眠りても微笑む嬰兒花明り
 憧れの人を見る目で花を見る
 花の雲ロープウエーの弾み発つ
 散り急ぐ桜花を画布に残しけり
 海という青き奈落へ落花かな
 地球儀の北半球に花の塵

松本
道男

学生団体・サークルのお知らせ

Nancy class & “うえるかむ”

春です！

* 眠りから覚めたら、ある日突然英語が話せるようになっていたらいいなー、なんて、思っているメンバーが多いので進歩はなかなか...ですが、皆“夢”を持っています。簡単な挨拶から最近のトピックス迄、Nancyのレッスンは変化に富んでいます。

* “うえるかむ”は平成7年に国際交流と国際文化を学ぶ、という目的で各学習センターのメンバー合同で発足し、翌年神奈川でも、と支部を作りました。交代でリー

ダーを務めラジオテクニストの“英会話入門”や、インターネットからの“Mag Mag”の英字新聞を読んだり、興味あるものを取り入れオシャベリにも花を咲かせています。合同では、3月に神奈川主催で伊東へ一泊旅行に出かけたり、アイデアを持ち寄ったり課外授業にも大忙しです。イギリスのOpen University 訪問が今年の夢ですが...

興味のある方は是非一度のぞいてみませんか。

*例会

“ Nancy Class

第2水曜 10:00~11:30

第4水曜 10:00~11:30

“うえるかむ”...神奈川...

第3木曜 13:30~15:30

第4水曜 13:30~15:30

*各支部合同...毎月1回程度...

*サークル参加ご希望の方は下記へお問い合わせ下さい。

星 : 045-844-9647

坂本 : 0467-31-8036(19時以降)

神奈川放友会

新入学の皆さん入学おめでとう御座います。在学生の皆さん新学期を迎え気分新たに頑張りましょう。

神奈川放友会は会員相互の交流の輪を拡げて親睦を図り、学習を援助する学生団体で下記のサークル活動をしています。

- ・行楽と研修を兼ねた旅行
- ・研修旅行
(大学本部・図書館等)
- ・旅にいこう会
(行楽地・名所史跡等)
- ・学習に関する情報交換
- ・会員相互の研究発表

放送大学での学生生活をより一層充実させ交流の輪を拡げたい方の入会をお待ちしています。

- ・行事予定(4月~9月)
 - 4月8日(土)新会員の勧誘と歓迎会
 - 4月30日(日)平成12年度総会
 - 5月20日(土)例会(情報交換)
 - 6月18日(日)旅にいこう会
(鎌倉)
 - 8月 フェスタ・ヨコハマ
(他学生団体と共催)
 - 9月16日(土)~17日(日)
放送大学本部一泊研修
- 詳細は4月の総会で決定します。

照会/入会申込先
〒235-0023
横浜市磯子区森1-15-1 810号
吉田 昭二
Tel/Fax 045-752-2783

人間学研究会

行事予定(2000/4~7)

【例会予定】

4/9(日) 総会
5/14(日)
6/18(日)
7/16(日)

連絡先:

大出 鍋蔵(0468-41-7937)

大事業というものは、肉体に宿る活気とか突進力とか機動性とかによって成し遂げられるのではなく、思慮と貫禄と識見とによるのであって、老境とはそのような物事を奪いとらるることのないばかりか、むしろそれらを増大せらるるのが常例である。げに無分別は青春につきもの、分別は老熟につきものである。

キケロ『老境について』

神奈川学習センターのホームページが下記へ移転いたしました。このセンターだよりのバックナンバーをご覧になれます。

・ <http://u-air.net/kanagawa/>

その他にも

神奈川学習センターの案内
神奈川学習センターのNews &

Reports

面接授業紹介

学生サークルのお知らせ

放送大学インフォメーション

スタッフ紹介

などの記事が載せてあります。

神奈川学習センターだより編集部

発行者:新飯田宏

編集者:五十嵐、遠藤、星、

加藤、松本、皆川、吉田、

斉藤、浅野、坂井

・今回の表紙と中のイラストは、坂戸五葉さんに描いていただきました。学生の方の原稿を募集しております。

・神奈川学習センターの増築工事は着々と進んで、新学期には新たなセンターで再出発です。

・キャンパス・ネットワークのID番号とパスワードを、学習センター窓口で配っています。学習センターでインターネットと電子

メールを行うことができます。

・神奈川学習センターの職員異動がありました。小倉事務長、吉宮総務係員、比嘉教務係員、これまでのご尽力に感謝いたします。佐々木新事務長、柳田教務係員、廣井総務係員、よろしく願いいたします。

放送大学神奈川学習センター

〒232-0061

横浜市南区大岡2-31-1

TEL:045-710-1910

FAX:045-710-1914

E-Mail:social@u-air.ac.jp